

第86回 経営協議会 議事要録

- 日 時 令和5年10月26日(木) 13時30分～15時00分
- 場 所 大学本部棟第二会議室 及び オンライン
- 委 員 日比野克彦 学長【議長】、迫 昭嘉 理事・副学長(教育担当)、
清水泰博 理事・副学長(研究担当)、
大場 武 理事(総務・財務・施設担当)・事務局長、
赤羽真紀子 委員、岡田武史 委員、高橋陽子 委員、二宮雅也 委員、
御立尚資 委員、湯浅真奈美 委員、
- 陪 席 上田良一 監事、武藤弘和 監事、麻生和子 理事、国谷裕子 理事、
岡本美津子 副学長(デジタル推進担当)、
杉本和寛 音楽学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長、
黒川廣子 大学美術館長、大森晋輔 附属図書館長
- 欠 席 吉本光宏 委員、中村政人 副学長(大学改革・渉外担当)、
佐野 靖 副学長(社会連携担当)、光井 渉 美術学部長【陪席】、
今村有策 副学長(国際連携担当)【陪席】、
河野文昭 演奏芸術センター長【陪席】、
箭内道彦 学長特命(大学改革・ブランディング戦略担当)【陪席】

議題

1. 令和5年度予算実施計画の修正について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 令和5年度光熱費の見込および財源対応策の見直しについて(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 東京藝術大学給与規則の一部を改正する規則等の制定について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 事務組織再編に伴う国際企画課に係る予算の活用について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
5. 目的積立金の使途について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
6. 令和4年度 自己点検・評価書について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
7. 令和5年度ガバナンスコードについて
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

報告及び連絡事項

1. 令和6年度概算要求の概要について
標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。
2. 令和4事業年度財務諸表の承認について

標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。

3. 令和5年度資金運用計画等について

標記のことについて、大場理事から資料に基づき報告があった。

4. 本学の取組について

議長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。

(本学の取り組み)

- ・ 2023/7 令和5年度 東京藝術大学 × 浦安市 浦安アートプロジェクト「浦安藝大」がスタート！
- ・ 2023/7/12 国立印刷局の工芸官による特別講義を開催 ～ 永岡桂子文部科学大臣、国立印刷局 大津俊哉理事長他が本学を視察～
- ・ 2023/6/29 東日本旅客鉄道株式会社と包括連携協定を締結
- ・ 2023/8/10 東京医科歯科大学と東京藝術大学、包括連携協定を締結
- ・ 2023/9/8 東京藝術大学×横浜市立大学コミュニケーション・デザイン・センター 横浜市電をモチーフとした体験型アート展示会「シーデン」を開催します。
- ・ 2023/9 ベネチア国際映画祭で濱口竜介監督の『悪は存在しない』が銀獅子賞を受賞
- ・ 2023/9 修了生 折笠良監督と山村浩二教授がオタワ国際アニメーション映画祭で受賞
- ・ 2023/10/20-11/5 東京藝大と浦安市によるアートプロジェクト「浦安藝大」がまちなか展示・トーク・ワークショップを開催！
- 「地域の課題×アート？」をテーマに浦安の魅力を再発見-
- ・ 2023/11/25-26 取手藝祭 2023の開催について/Toride Geisai 2023
- ・ 2023/11/10-26 芸術未来研究場展

懇談事項

1. 本学取組の国の政策への反映（各省庁等への働きかけ等）について

議長から、標記について提案があり、意見交換を行った。

(主な意見等)

- 美術、音楽、芸術全般を日本でどのように位置づけ、グローバルでどう位置づけるか。過去から未来にどのように繋がるのか。日本は芸術分野においてこれを打ち出せていない。例えば、観光では、ウィーンでオペラ2夜、別々の作品を上演し、観光客に2日間滞在させる。その戦略がその国の歴史や文化に紐付いている。それが日本では希薄で国の政策においても、歴史的にやってきたことを体系立てて説明していくことが必要になってくるのではないか。藝大の奏楽堂でも卒展でも過去を作ってきたはずで、その歴史の上に立って、今を説明し、未来を語るができる。
- 芸術文化を広く裾野尾を広げていくのが必要となる。卒業生がそれぞれの地方に根付いて文化芸術を広げていく。
- ある企業では、ITや実業界の有志が一口10億円で出資してもらい、運用益を寄附してもらおうといった寄附金を運用している。非営利徹底型一般社団法人の場合、収益事業以外の事業は法律上非課税になる。そのような資金の運用について、国立大学が柔軟に対応できるように働きかけてはどうか。
- 文化庁が芸術の重要性について発表しているが、それが国の予算と紐付かないのが問題である。

- 藝大の中期目標は国家戦略としっかり結びついており、更に地方自治体等との地域に根付いた地道な取組もしっかり評価されればと思う。こういった取組を経団連の会合で伝える等、企業の力を使うことも重要ではないか。
 - 英国で進めている経済政策におけるクリエイティブインダストリーは、文化芸術分野が含まれている。Research & Developmentという、どうしても科学を思い浮かべてしまい、予算がそちらに行きがちであるが、科学と人材を組み合わせるなど、文化芸術分野の重要性が注目されている。英国だけではなく他の国も同様に、国の成長促進を後押しするため、この分野の振興を図る動きがある。
 - 日本の自動車産業は世界トップクラスであり経済成長してきたが、今は規模が縮小している。一方で海外のメーカーでは20年前から都市をどのようにデザインするかというところから、自動車がどうあるべきかを考え世界の変化に対応している。日本は物作りが得意としてきたが、イノベーションに欠ける部分があったように思う。今こそイノベーションを起こすきっかけとなる藝大のアート思考やアートの力が求められているのではないか。
 - 藝大の取組に対して企業や世間の関心は高いと思う。芸術を真っ正面から取り組んでいる藝大生を巻き込んだ形の対話の場を作れば、よりよい取組となるのではないか。
- 以上